Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

Incidence of Inadvertent Intraoperative Hypothermia with Continuous Air Forced Active Warming. Single Center, Retrospective Study

メタデータ	言語: en 出版者: 公開日: 2020-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 湯本, 充規子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032435

主 論 文 の 要 約

Incidence of Inadvertent Intraoperative Hypothermia with Continuous Air Forced Active Warming. Single Center, Retrospective Study

（温風式加温機による積極的加温処置下の術中偶発的低体温の発生率 単一施設における後ろ向きの検討）

東京女子医科大学麻酔科学教室
（指導：尾崎　眞教授）㊞
湯本　充規子

雑誌 Journal of clinical Anesthesia and Management
第 2 巻第 2 号 Open Access（平成 29 年 11 月 3 日発行）に掲載

【目　的】

術中の低体温は種々の合併症を引き起こすことが報告されており、積極的加温処置下を行っている今日でさえ問題である。積極的に体温管理を行う施設で一般的なのが温風式加温機であるが、この温風式加温機がどの適度低体温の予防に寄与しているのかはっきりとした報告はない。そこで温風式加温機を積極的に使用している当院での体温管理の実態と低体温発生率や体温管理および低体温に対する認識を検討した。

【対象および方法】

倫理員会承認後の当院で全身麻酔下に手術を受けた 25,518 人を対象とした。うち 5,620 人が除外された。術中の体温は AIMS(Metavision®,FUKUDA DENSHI Tokyo, Japan)より 1 分毎に抽出した。残存した 18,274 人を対象症例の 36 度未満を低体温とし 36 度以上 38 度未満のものは正常体温に群分けし検討した。

【結　果】

対象症例の 18,274 人のうち 9,970 人が低体温であり、8,276 人が正常体温に該当した。手術領域では頭頸部および脳外科領域、小児外科領域では低体温の発生が低かった。

【考　察】

対象症例全例に積極的な体温管理のための温風式加温機を施行していても全体の 54.5%に低体温が見られていた。特に胸部外科や腹部外科においてその発生率は高く、逆に頭頸部においては低体温の発生頻度は低かった。これは頭頸部の手術では全身が温風式加温機に覆われている為と考えられた。また小児外科領域でも低体温の発生率は低かったが、これは他の手術と比べ手術室内の室温が積極的に高く維持されて、意識的に積極的な温風式加温機を術中継続的に使用している為ではないかと考えられた。ただし、術中に正確に体温測定をできていない症例が全体の 25%を占めており麻酔科医をはじめ外科医や医療従事者が体温管理に対して関心を示さなかったとも考えられる。またこれだけの除外症例があることは依然体温管理に対しての認知度が低いと考えられた。このため積極的な体温管理のためには術中の体温測定を継続し、体温管理の研究や教育が必要かもしれないと考えられた。また体温測定部位によってもばらつきがあるためこの研究では測定部位の違いや測定方法などの正確性には限界があった。このため今後前向きな検討が必要と思われた。

【結　論】

全症例に温風式加温機を用いて積極的に体温管理を行っている単一施設での 36 度未満の低体温発生率は 54.5%であり、術中の体温測定を正確に施行できていない症例は全症例の 25%を占めていた。